



平成25年7月23日
海事局安全政策課

コンテナ運搬船安全対策検討委員会の設置について

1. 検討委員会の設置主旨

本年6月17日に大型コンテナ運搬船「MOL COMFORT号」（2008年三菱重工業建造、バハマ船籍、商船三井運航）が、シンガポールからジェッダ（サウジアラビア）へ航行中、インド洋沖で船体中央部が折損し、自航不能となる事故が発生しました。幸い、26名の乗組員は事故後ただちに全員無事救助されております。

このような状況を鑑み、国土交通省海事局では、業界関係者及び専門家を参集し、コンテナ運搬船の今後の安全対策のあり方について検討するため、「コンテナ運搬船安全対策検討委員会」を設置することと致しました。

2. 委員構成

横浜国立大学 角洋一教授を座長とし、船級協会、船会社、造船所、研究機関を委員として構成します。詳細な委員構成は現在調整中です。

3. スケジュール

第1回委員会は早期に開催することとし、2ヶ月程度で安全対策を取りまとめることとします。

【問い合わせ先】

国土交通省海事局安全政策課船舶安全基準室 田淵（43-561）

貴島（43-562）

TEL：03-5253-8111 直通：03-5253-8631 FAX：03-5253-1642

(ご参考)

平成 25 年 7 月 23 日

大型コンテナ運搬船「MOL COMFORT」事故概要

○事故船舶

船名：MV MOL COMFORT (IMO Number : No. 9358761)

船籍：バハマ

船種：コンテナ運搬船 (8,000TEU 型、事故当時は 7,041TEU 積みつけ)

主要目：316.00m×45.60m×25.00m、86,692GT

船主：商船三井

建造：2008 年 7 月 14 日 (三菱重工業長崎造船所)

○事故発生状況

- ・シンガポールからジェッダ港 (サウジアラビア) へ向け航行。
- ・2013 年 6 月 17 日インド洋を航行中 (オマーン南岸より大凡 1,000km 沖) に事故発生。
- ・船体中央部折損、貨物倉への浸水のため自航不能。
- ・中央部で折損し、その後、前後部に分離。
- ・26 名の乗組員 (ロシア 11 名、ウクライナ 1 名、フィリピン 14 名) は全員無事救出。
- ・一部の貨物が流失した可能性もあるが、多数は船上。多量の油流出もなし。

○事故後の状況

- ・6 月 25 日 船体前半部をアラビア湾方面に曳航開始。
- ・6 月 27 日 船体後半部が沈没。大量の油流出は確認されず。
- ・7 月 6 日 船体前半部の後部から火災発生。
- ・7 月 11 日 火災の進行とともに傾斜が進み、船体前半部も沈没。

コンテナ船の概要

構造・特徴

- 標準化された鋼鉄製の貨物用コンテナを輸送する貨物船。
- タンカーやバルクキャリアと並び国際間の海上貨物輸送の主流。
- コンテナに積まれた貨物はトラックや鉄道などへの積み替えが容易。短い時間で荷役可能。
- 安定した寄港スケジュールを維持するため、他の種類の船より高速航行(平均約25ノット、タンカーの速度は15ノット程度)の性能を持つ。
- 日用品、工業製品、精密機器、加工済み食品、製材済みの木材や金属インゴットのような原材料などドライカーゴと呼ばれる物のほとんどを輸送。

大型化の傾向

コンテナ荷動量の増加及びコンテナターミナルの能力拡大によりコンテナ船の大型化が加速化

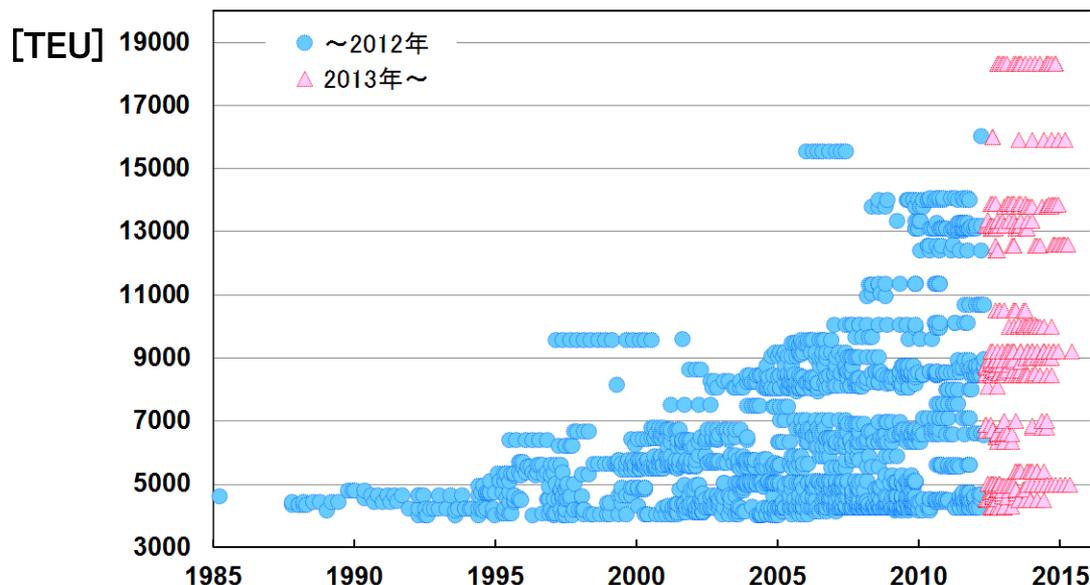


図. 4,000TEU以上のコンテナ船の建造状況(年毎) [建造年]



※TEU

- 標準的な大きさのコンテナ1個分相当の容積を示す単位。
- 1TEUは、20フィート(6m)コンテナの1個分に相当。

[単位:百万TEU]

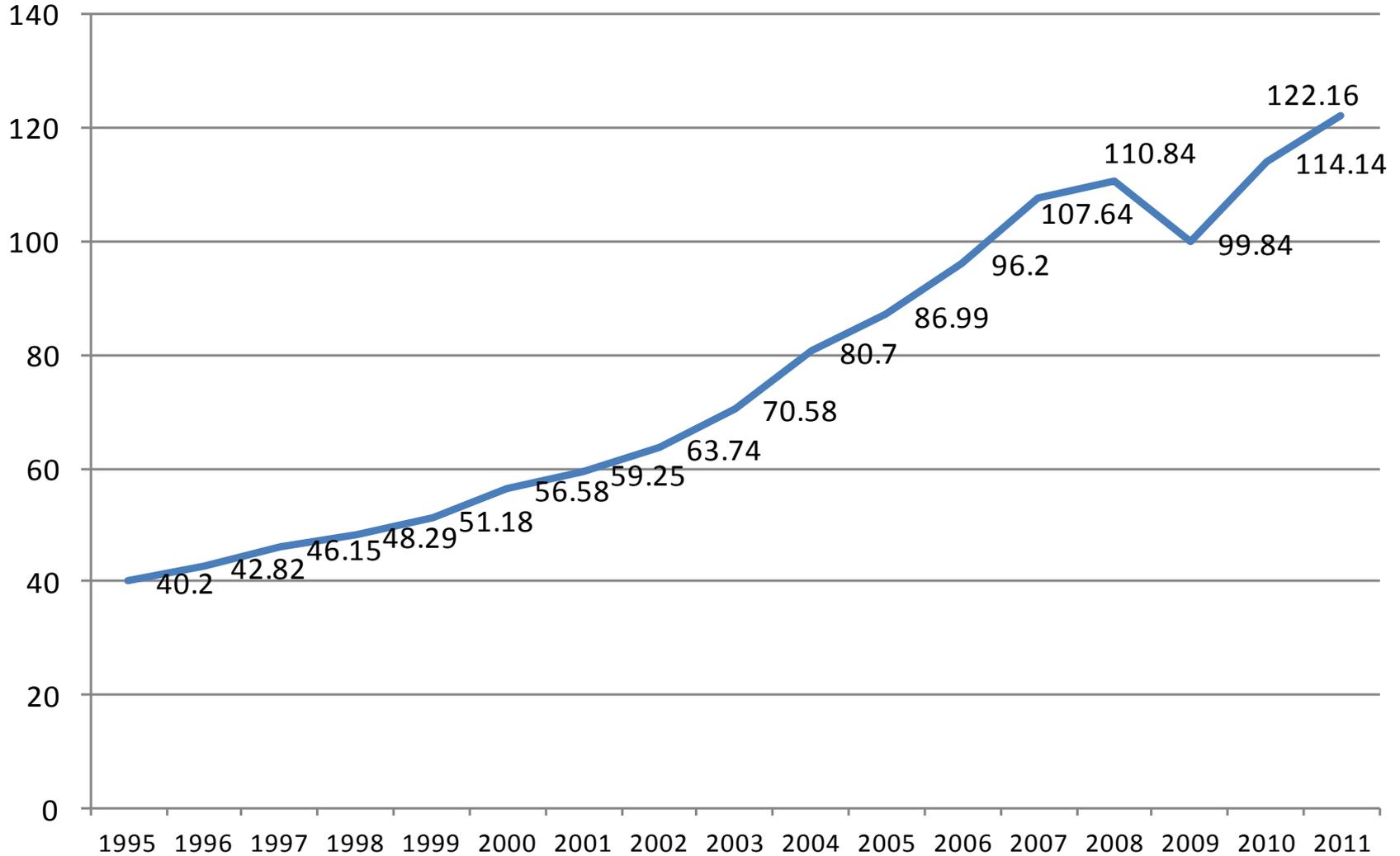


図. 世界のコンテナ荷動き量の推移(1995-2011年、IHS データ)